

平成30年度（理科）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の理解を助ける教材の工夫 基本的な内容を理解させるために画像などを使用する。 知識の定着 理解した知識を整理して定着させる必要がある。 練習問題の提示 問題を解くことで知識の使い方を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書や他の動画、写真などの視聴覚教材を多く使用し、理解を深めさせる。 プリントを使って授業を進め、ノートまとめをさせる。自宅学習の大切さを理解させる。 ワークなどを利用し、基本的内容から応用的問題まで、多様な練習問題に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で発展的な内容とされているところにも触れる時間をとり、興味・関心につなげる。 実験結果についてグループ単位での話し合いを通して、言語活動の充実を図る。 記述式の問題などを通して、系統立てた学習の理解を図る。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を引く教材の工夫 科学が生活に密接していることを理解させる必要がある。 思考力、表現力の育成 答えを教わるだけでなく、考え、予想する事が必要である。 練習問題の提示 授業で得た知識を、点数につなげられるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習内容など、生徒の実態を把握し、適切な教材を用意する。 実験の前に予想を立てる時間を重視する。その他にも、考えさせ、議論することを重視する。 既習内容について、問題の形式で確認し、理解を深めるとともに問題に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場合によっては小学校の内容まで振り返って学習し直す。 科学的な用語の意味を理解するだけでなく、それを使いこなせるようにしていく。 入試問題など、教科書や問題集以外の問題も扱う。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> 関心意欲の継続 評価よりワークプリントをさらに効果的にする方策が求められた。 思考・表現力の向上 定期考査や授業の発問に対して、自分の考えをうまく表現できないことが見受けられた。 知識の定着 専門用語の定着が反復不足で不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 抽象的な事象について身近な例を挙げたり、PCのソフトを活用したりする。 話し合い活動、発表活動を取り入れ、複数で話し合わせることにより、理解を深めさせる。 小テストを複数回行い、知識の定着を確認し、家庭学習による復習の必要性を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元によって、PCソフトを活用したり、映像資料などを見せたりして理解を深めさせる。 話し合い、発表の内容と連動したワークシートを活用し、思考の手順や発表法を考えさせる。 前時の授業の確認を行い、本時の内容とのつながりを理解させる。